



2019年6月
第71号

☎ 111-0052
東京都台東区柳橋2-22-3
ウェスレアン・ホーリネス
神学院
☎ 03-3851-3762
FAX 03-3851-3858
振替口座番号
00130-4-364534
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院
発行人 山崎 忍
編集人 文カンホ、後藤貴子
印刷所 ヨベル

危険と好機のはざままで

舎監長 新川代利子



今日の宣教学において大きな貢献をしたデイヴィッド・ボッシュは、著書「宣教のパラダイム転換」の冒頭で現代の危機を述べています。宣教という言葉は、信仰の普及、神の支配の拡大、異教徒の回心、新しい教会の設立という伝統的な意味において用いられてきました。宣教する者たちの真の派遣者は神であられ、神が権威をお持ちであるのに、実際には、教会、或は宣教団体、更にはキリスト教の有力者などに権威は付与されると理解されたからでした。しかし、20世紀になるとこの伝統的な解釈に変化が起

こつてきました。教会の内外から、伝統的な在り方の宣教に対して批判が起こり、再考することが求められてきたからでした。

文化庁編「宗教学鑑」2018年版によりますと、教会総数はその前年に比較しますと539増加し5818になりましたが、信徒数は2016年より8426減少し、2017年より更に613減少して959640人、日本におけるクリスチャン人口は0.76%となっています。大正のリバイバルから100年を数える今年、信徒数の減少、無牧の教会の増加、召命に応答して神

学校に入学する者たちの減少という危機に、更には教会の中に世俗化が忍び込み、神への信仰を後退させてきているという、より大きな危機に対して、神学院は、そして教団はどのように対処していけば良いでしょうか。

ボッシュは、1938年の国際宣教会議の準備のために書かれたクレマーの言葉を引用しています。「厳密にいうならば、教会は常に危機状態にあり、その最大の欠点は稀にしかそのことに気付かないことである、と言わなければならぬ」。リバイバルを再度と願うには、まず危機に気が付くことが必要です。愛を本質とし、聖と義に生きるキリストの体なる教会であれば、その使命を果たしていく上で常に世との戦いがあります。特に世俗化の波は激しく教会を襲い、信徒や求道者の

価値観を揺さぶっています。

この激しい戦いに直面する時、希望が見えてきます。ボッシュは、日本人の神学者小山の著書から次のように述べています。「危機に出会うとは、真に教会になる可能性との出会いであるということを知ろうではないか。日本語の『危険』という語は『危険』を意味する漢字と、『好機』(あるいは『約束』)を意味する漢字を結合したものである。それゆえ、危機は好機の終りではなく、実際には、好機の始まりであり、危険と好機が出会う場所である。未来は両者の均衡の中であり、出来事がどちらにも行く可能性のある場である」。危機に気付くと、その結果、真の教団、神学院になる好機が始まります。

選民イスラエルが400年に亘るエジプトの奴隷状態から解放され、40年に及ぶ荒野の旅を経て神への従順と信頼を学び、ついに約束の地に定住したにも関わらず、神から選ばれた目的を喪失し、民も祭司も世俗化に流されて危機に瀕した時、神は誰を用いたでしょうか。祈りの人ハンナでし

た。神を畏れる家庭に二人の妻がいたことは、跡継ぎを儲けるために世の慣例に流された結果だったでしょう。世俗化は、神を中心とする家庭に悲しみと対立をもたらします。夫に愛されているハンナを敵と見るもうひとりの妻ペナに苦しめられ、悩まされたハンナが「男の子をお授けください」と万軍の主に神殿で祈り、激しく泣いた時、その祈りは単なる個人的な願望ではなく、国と民族の救いのための願いを叶えてくださいと、心を注ぎ出す祈りでした。祈りの答えを確信したハンナの「表情はもはや前のようではなかった」(サムエル上1:18)と記されています。「わたしはこの子を授かるようにと祈り、主はわたしが願ったことをかなえてくださいました。わたしは、この子を主にゆだねます。この子は生涯、主にゆだねられた者です」(同1:27、28)。危険と好機のはざままで、収穫のための働き手を生み出すハンナになりましょう。

◆卒業生の証し◆

主のしもべとして

日本キリスト教団渋谷教会

堀部舜



これまで
で祈り、支
えてくだ
さった諸
教会の皆
様に心か

ら感謝致します。

私は大学生の時に初めて教会に行きました。主イエスの御名によつて初めて祈った時、夢で「恐れるな」という文字を非常に鮮やかに見て、信仰を持ち始めました。洗礼を受けて少し経った頃、自分の罪深さに圧倒され、深く祈っていたある時、特別な神様の臨在を感じました。「それでもわたしはあなたを愛している」との御声を聞き、深い信仰の確信を持ちました。

その少し前、聖書通読の中で御言葉が示され、御言葉の務めに召

されていることをはつきりと自覚しました。「この民が謀反と呼ぶことをみな、謀反と呼ぶな。この民の恐れるものを、恐れるな。おののくな」(イザヤ8:12新改訳)。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ」(エレミヤ1:7回)。

伝道師となるにあたって、モーセに言われた御言葉「わたしが自ら同行し、あなたに安息を与えよう」と、変わらないご臨在をもって、神様は励まして下さいました。ただこの恵みにより頼んで歩みます。

私は、聖書を通して神様の御心を良く知り、それに従うことに、心を砕いてきました。そして、自分だけでなくすべてのクリスチャンが、聖書を通して自ら御心を知り、従い、喜んで歩んでいくことに、大きな重荷があります。

私は、伝道者・牧会者としての

第31回

ウェスレアン・ホーリネス神学院

卒業式

2019年3月1日



務めが、神様に対する責任であつて、終わりの日には御前に立つ者であることを覚えます。ふさわしくない者に値なしに与えられる大きな恵みによつて、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして」、神を愛し仕える者でありたいと願います。

主イエスは言われました。「あなたにたがたの中で偉くなりた

は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコ10・42〜45)。

教師の権威は仕える権威だと信じます。主イエスが多くの人々に御自身の命を与えてお仕えになったように、クリスチャンは、仕えることに召されています。神としてのキリストの栄光が、十字架の死のへりくだりの中に現れたように、クリスチャンの権威は、御心への全き服従とへりくだりの中で現われます。主イエスが愛によって御自身を与え尽くされたように、教職者の権威は、神の栄光の教会を建て上げるために、愛によってどこまでも自分自身を与え尽くすことの中に現われます。

これは、人の力をはるかに越えた召命です。しかし、私と共におられる主イエス様は、この私のために、神でありながら人となり、命まで、しかも十字架の上で与えてくださいました。その愛と恵み

は、今も永遠に、変わることがありません。この主の御愛によって救われた者にふさわしく、限りない恵みにふさわしくお答えし、どこまでも従っていく者でありたいと願います。

主よ、「生きるにも死ぬにも、私の身によって、主イエスが崇められますように」(ライリピー・20)。

乳と蜜の流れる地に導かれて

浅草橋教会 黄雪琴



皆様の熱きお祈りに支えられ、小さな者も神

学院での4年間の学びと訓練が守られました。去る3月に神学院を卒業し、年会の派遣を経て、この4月から浅草橋教会に遣わされました。誠に人の思いを超えた神様の素晴らしい恵みを感じます。

神学院での4年間、私は先生方から貴重なご指導をいただき、先輩・後輩たちの忍耐とご愛に支え

られ、家族・友人のお祈りと親切に助けられてきました。しかし、最も私の近くにおられ、常に教えてくださり、守り導いてくださったのは主でした。多くの訓練の機会を備えてくださり、また乗り越える力を与えてくださった主イエス様は誠に真実なお方であり、深い憐れみを持って私を見守り、助けてくださいました。ただ、主に感謝です。

神学院の先生方、派遣教会の皆様は私の至らなさと多くのご苦労をおかけし、時折ご心配をお掛けしてまいりました。皆様に申し訳なさと有難さを心に覚えます。今になって、一つ一つの出来事は私を強め、イエス様の死と復活の恵みを体験する大切な経験となったと、わかりました。

卒業後の最初の派遣地を主に期待しつつ、できればまだまだ未熟な私を指導してくださる先生方がおられる所を願っております。神様の御計らいの中、浅草橋教会に派遣され、山崎先生、ムン先生の下で学び、お仕えるようになりました。

赴任して一ヶ月経った今、先生

たちをはじめ、浅草橋教会の信仰の先輩たちから多く教えられています。皆様がどのように主に仕えし、互いに奉仕しているのかを身近に学んでいます。

私が召命を受けた年に与えられた年間聖句は「私の家は祈りの家と呼ばれるべきである。」(マタイ21・13)でした。この時から、祈りを自分の最大な務めであることを意識し、取組んでいました。その1年後に、「日本・韓国・中国とアジアにある3つの国が十字架の下で喜び、礼拝を捧げる光景」を幻で見ました。そこから、目を開かれ、神のビジョンに向かって一歩一歩導かれて、今日まで参りました。

伝道師になった最初の年、浅草橋教会の今年の聖句は「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。」(イザヤ56・7)と「若者は幻を見、老人は夢を見る。」(使徒言行録2・17)です。それを見ながら、一人の貧しい留学生であった自分がどのように主に召し出されたのかを思い出し、若者であった時に与えられた幻に向かって主はどのように御業を進めら

れるのかを見届ける日々です。

平安の内に主は私を浅草橋教会に遣わしました。ここで、貴重な信仰の学びをする以上に、さらに主の御手の中、愛を増し加えられ、整えられて、先生たち、皆様、これから導かれてくる日本人、韓国人、中国人の一人一人に忠実にお仕えできるように祈っております。

◆新入生の証し◆

神学院入学に導かれて

神学科1年 黒木真菜

「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。」(箴言16・9)



2017年春、24年間過ごした宮崎を離れ就職

のために上京しました。一度宮崎の外に出てみたいという思いや、お

産の介助の経験を多く積み3年

程したら地元産科に貢献できるような技術を身につけたいという思いがあり、産科に力を入れていく東京の病院を選びました。しかし実際に配属されたのは、産科の中でもリスクのある妊婦さんに特化した病棟で、1度もお産の介助をすることなく2年が過ぎました。助産師としてキャリアを積むという自分の計画は予定通りには行かず、1年後には宮崎に帰ることも具体的に考え始めていました。そのような時期に参加した2019年2月のケズイックで、私は献身へと導かれました。

ました。

2018年の浅草橋教会夏期修養会で山崎牧師に、献身の思いがありそれが次第に強められていることを話し、祈っていたきました。自分も献身について更に神様の御心を祈り求めるようになり、2月が近づきケズイックに参加できるよう祈り、2月20日に休みが与えられ日帰りで参加しました。1つ1つのメッセージ、賛美の歌詞が今まで無い程に自分へのメッセージとして心に響き、人生をただ神様だけに献げたいとの思いで満たされました。直接献身の招きの時、「全てをあなたにお委ねします。御心であればお用いください」と祈ると「何も心配せずに行きなさい」と自分の内に声が響き、迷わず立ち上がった自分がありました。これまでの祈りも聞かれたのだと確信を持って前に進み出しましたが、同時に「仕事もあるし今年は無理、早くても1年後……」との思いが生じました。

れた東京ケズイックでローマの信徒への手紙12章1〜2節が語られ「イエス様は私のために全てを献げた。だからあなた自身を神様にお献げしなさい」というメッセージが強く心に響き、最後の直接献身の呼びかけに応じたい気持ちに満たされました。しかしどうしても立ち上がることができず「まだお応え出来ません、神様ごめんなさい」と祈り、来年は森林公園のケズイックに行きたいと思

その日からの1週間、毎日神様から「恐れを捨て私を信頼し、今献げなさい」と御言葉から示される日々でした。最終的に箴言16章9節の御言葉により、自分の計画と神様の計画とは異なり、神様が最善の道を用意、歩みを守ってくださると確信させられ、3月末に退職し、この4月に入学式を迎えることができました。自分で決めたつもりであった上京は、神様の御



計画であったことを知りました。神様以外のものをすぐに恐れる私に、神様は何度も御言葉を示し、聖霊様を通してその御言葉がよく分かるよう助けてくださったこと、その神様の憐れみに言い尽くせない感謝でいっぱいです。

神学院での生活・学びがここまで守られていることに感謝します。愛の溢れる先生方との贅沢なマンツーマンの授業で日々新たな発見と感動があり、更に優しくユーモア溢れる先輩方に励まされる日々です。予想もしない試練に出会うこともあると思います。が、与えられた4年間を御言葉に従い、喜びと祈り、感謝をもって歩みたいのです。これからどうぞよろしくお願い致します。

◆在校生の証し◆

私と共にある神の恵み

神学科2年 岡聖志

いつも私たちのために、お祈りとお支えをありがとうございます。振り返れば1年前、新しい環



境での生
活を前に
何とも言
えない不
安を感じ

ていたことを思い出します。しかしこの1年間で、素晴らしい先生方と学友に恵まれ、また派遣教会でもよい交わりが与えられて、良い学びの時を過ごすことができました。経済的な面で、また能力の面で無力さを感じたことも多くありましたが、その中でただ神様に頼ることを学び、また祈り合い励まし合うことの大切さを学びました。弱い私ですが新年度はますますへりくだって神様により頼み、恵みにより強められて歩んでいきたいと思います。また、ただ一方的な恵みにより救っていただいた者として、いままでより深く魂とかかわり、愛し仕えることを学んでいきたいと思います。将来についても具体的に祈っていきたいです。「働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。」(コリント一15・10)

今年度の目標

神学科2年 船津悠大



現在、とても祝福された神学生生活を送ることを

とができています。神様が皆さんの祈りを聞いてくださっていることを実感する毎日です。感謝します。

前年度は、先生、先輩方が優しく指導してくださったおかげで充実した生活を送ることができました。右も左もわからない中で、とにかく興味のある分野をいろいろと勉強しました。

御言葉で一番印象に残ったのは、ヨハネ5章40節です。勉強している、知識が増えます。そして、神様を知った気になります。しかし、イエス様に言わせれば、勉強してもイエス様のところに来なければ意味がないのです。今年度の目標は、神様とさらに交わることです。聖書の御言葉をじっくり黙想したり、

祈りの時間を増やしたいです。また、人々との交わりを通してしかわからない神様のことがあるので、もっと交わりを持ちたいです。

お祈りのお願いです。人々が心燃やされ、神様との深い交わりに導かれるようなバイブルスタディーをしたいと思っています。神様が知恵と力を与えてくださるようにお祈りを願います。

切なる願い

神学科3年 桑原晴美



皆様の背後のお祈りに支えられ3年生になることが出来ました。心からありがとうございます。

学びも奉仕もさらに忙しくなってきた感がありますが、守られています。

今の私の切なる願いは、もっと神様を深く知りたい、もっと神様を愛したいという事です。誘惑に

弱く、神様以外のものに気が散りやすい私にとって、神学院の早天祈禱会で、神様のみことばによって、祈りによって一日を始められる事は何という神様の憐れみ、何という恵みでしょうか。イエス様の弟子として福音を伝え、神を愛し、隣人を愛することを教えていこうとする時、自分自身がそのよくな者でなければどうして出来るでしょうか。

傲慢で罪深い私の全てをご存知で、それでも赦し愛して下さい。神様の愛を疑う余地はありません。この人知を遥かに超えた神様の愛にお応えしたいのに圧倒されてどうしたらいいのかわからない私です。どうぞ、もがく私のために続けてお祈り下さるようお願い致します。

今年の目標

神学科3年 柳泰鉉

もう3年生になりました。神様の恵み、皆さんのお祈りや励ましのおかげで、今日まで守られたこと感謝いたします。



入学してから自分の弱さのことで失望した

り、悩んだりしましたが、この2年間の神学院生活や信仰生活を通して、たくさんの方を学び、成長することができました。今は、本当に毎日感謝を持って、楽しく生活しています。今年はキャンプとなり、忙しく、責任感を感じていますが、在校生の皆さんが喜んで協力してくれるので、これからは順調にキャンプの役割を担っていくことができると思います。今年の目標は、ちゃんと早天祈禱会に出ること、また本をたくさん読むことです。去年までは、疲れて朝起きられなく、早天に出席できなかったことが多かったのです。しかし、今年になってから、毎日早く寝ようと頑張っています。また私は本や勉強が苦手です。いつも苦労していますが、頑張りたいと思います。神学院の生活、また学びを通して、神様をもっと知るようになり、交わりの時間をもちたいと思います。

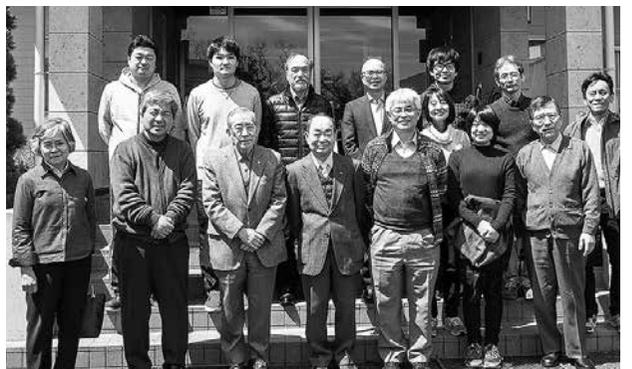
◆神学院オリエンテーション◆

神学院のオリエンテーションの恵み

川崎 豊

この度神学院は、一人の女子新入生を迎えて2019年度の歩みを始めました。4月9日浅草橋教会において入学式を恵みの内に終え、そのまま自動車3台を連ねて、3日間のオリエンテーションの会場「日光オリエンテーション」に向かいました。

1日目は新入生のために神学院の授業及び寮生活、更に派遣教会での奉仕等の心得について学び、中日は季節外れの大雪に見舞われたため、観光地巡りが出来ませんでした。しかし有志で卓球をするグループや各自自由に楽しい時を過ごしました。今回用いられたテキストはチャールズ・フィニー著「リバイバルの鍵」でした。36年前に出版された古い絶版本でした。それをコピーしました。フィニー師は米国で起こったリバイバル



の中心的な説教者でした。自らの体験を通してリバイバルとは何か、どうしたらリバイバルが起こるのかについて深く霊の目を持って丁寧に説明してくれています。この書物を読んだ多くの人々が実際にリバイバルを経験したのでした。

単なる知的な学びで終わらせないで読む者に霊的な迫りを感じさせる書物でした。リバイバルは決して奇跡の出来事ではなく、祈りへの強い渴望を持ち、祈り

によって示されたことを悔い改めて全力を注いで御心に従うならリバイバルは聖霊の働きによって必然的に起こるといえます。指導する教師も学生も隠れた罪がないかを探られ、聖別会においては神の御意思に全身全霊をかけて従う決意をし、感謝を持って会場を後にしました。神学院の授業が始まりました。学生と教師たちのためにお祈りください。

◆献金のお願い◆

神学院では、毎年年会時における予約献金、神学院デー献金、また個人、団体献金に支えられ運営を続けておりますが、近年、学生数の減少化や、寮の老朽備品の交換等もあり、毎年、蓄えを切り崩している状態が続いております。教団の将来の伝道者育成機関である神学院運営のため、更に祈り、お献げいただければ感謝です。

◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支えを心から感謝します。2019年3月に、2名の卒業生を送り出し、4月には1名の新入生が与えられ、新年度が始まりました。今年は神学院31年目を新しくスタートする年であつて山崎忍学院長のもとで聖霊の新しい風をいただき、福音のために前進する神学院となるように祈り求めています。皆様も心を合わせてお祈りくださると幸いです。よろしくお願ひいたします。

今回の神学院便り第71号では、舎監長の新川代利子先生の巻頭言、去る3月に卒業し、教団の教師としての歩み始めた堀部舜師、黄雪琴師の言葉、そして、新入生、黒木真菜神学生の証し、在校生からの新年度に向けての抱負、そして、献金者一覧を掲載させていただきました。

神学生は、前期授業終了、試験の後、7月の関東夏期聖会より、夏期伝道期間に入ります。それぞれの霊性、健康が守られ、良き伝道実践の時となりますように、また、受け入れて下さる

諸教会に主の豊かな祝福がありますようにお祈りください。この神学院だよりを読んでいるすべての兄弟姉妹の上に真の平安がありますようにお祈りいたします。



ウェスレアン・ホーリネス神学院入試要綱

受験資格

- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後2年以上の者
- 専心宣教教会の業に仕える明確な召命感をもち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

受験手続き

以下の書類を整え、本学院事務所に郵送または持参してください。なお神学院所定の用紙はホームページにもありますので取り寄せてください(①～⑤は学院所定)

- ①入学願書 ②履歴書 ③信仰歴 ④所属教会牧師の推薦状 ⑤召命に関する短文(400字×3枚程度) ⑥最終学校卒業証明書 ⑦同成績証明書 ⑧健康診断書

入学試験日

- 第1回 2019年11月19日(火) 試験科目:聖書、英語、ホーリネス
- 第2回 2020年2月4日(火) 試験科目:聖書、英語、ホーリネス
- 第3回 2020年3月10日(火) 試験科目:聖書、英語、ホーリネス

入学金:50,000円/授業料:年額 230,000円/寮費:月額 5,000円/食費:月額 15,000円

- 上記の外に研修費・教材費があります。※寮費・食費はその時の事情で変動することがあります。

ウェスレアン・ホーリネス神学院

連絡先:〒111-0052 東京都台東区柳橋2-22-3 TEL 03 (3851) 3762

詳しくはホームページをご覧ください <https://whseminaryjimdo.com/>